

2023年ドーハ国際園芸博覧会日本国屋内出展

実施計画書（Ver.1）

2023年3月13日

I．出展テーマ	
1 カタール・ドーハ国際園芸博覧会概要	2
2 日本国出展事業概要	3
II．屋内展示計画	
1 屋内展示の考え方	4
2 屋内出展施設	5
3 展示ゾーニング・動線について	6
4 展示会場イメージ図	7
5 展示構成	8
6 情報発信展示（震災支援の感謝）	11
7 情報発信展示（農業技術等）	12
8 商業活動促進支援について	12
III．出展勸奨&出品募集計画	
1 出展形態及び出展勸奨について	13
2 花きPR・コンテスト出品勸奨について	15
IV．花き専門スタッフ	
1 花き専門スタッフの募集と研修	16
V．行催事計画	
1 オープニングセレモニー	17
2 ジャパンデーイベント	17
3 クロージングセレモニー	19
4 ビジネス意見交換会	19
5 体験・交流イベント	20
VI．広報計画	
1 ホームページ及びソーシャルメディアの活用	21
2 パンフレット等（来場者用、事業者用）の制作について	22
3 メディア広報について	23

1 カタール・ドーハ国際園芸博覧会概要

- 正式名称

The International Horticultural Exhibition
EXPO 2023 Doha Qatar
2023年ドーハ国際園芸博覧会
- 種類

国際園芸家協会によるA1クラス承認
国際博覧会条約に基づく認定博覧会
- 開催テーマ

Green Desert, Better Environment
（緑の砂漠,よりよい環境）
中東地域で初のA1国際園芸博覧会。
砂漠化を抑制し、持続可能な環境を確立するための革新的な解決策について、参加者と来場者に奨励し、刺激を与え、情報を提供することを目的とする。
《サブテーマ》

Modern Agriculture
最新の農業

Technology & Innovation
テクノロジーとイノベーション

Environmental Awareness
環境意識

Sustainability
持続可能性
- 開催期間

2023年10月2日（月）～2024年3月28日（木）
- 開催場所

カタール国ドーハ、アルビッドパーク（170ha）
- 想定来場者

300万人
- 参加国数

1月22日現在：53ヶ国（最終70ヶ国の参加見込み）



2 日本国出展事業概要

■ 事業目的	2023年10月2日から2024年3月28日までの179日間、カタール国のドーハにおいて開催される2023年ドーハ国際園芸博覧会に公式参加する。 2023年ドーハ国際園芸博覧会は、A1クラスの国際博覧会条約に基づく認定博覧会であり、一般消費者とともにカタール等中東諸国をはじめとした世界の花き産業関係者が多数訪れることが見込まれる。この博覧会で日本の多様で高品質な花きと花きの文化、造園緑化技術について発信することによって国際社会での国産花きの評価を高め、日本の花き輸出拡大、緑化・環境技術の海外展開を図ることを目的とする。
■ テーマ	Green Gift from Japan 日本の花きや先進的な緑化技術を「Green Gift」という形で官民連携により展示し、もって中東地域も含めた日本産花きの輸出振興を図るとともに、日本の緑化・環境技術の海外展開の促進を図る。
■ 出展方針	《屋内展示》 屋内展示は博覧会事務局が整備するドーム施設に約200㎡を確保し、日本の優れた花き、花き文化等を紹介するとともに、本園芸博覧会のテーマ、サブテーマに関連する我が国の技術等を展示する。 《屋外出展》 屋外出展はドーム施設に隣接する約800㎡の区画を確保し、枯山水等伝統的技法や、壁面緑化等の現代的緑化技術を活用した展示を行う。 * 屋内・屋外展示において、2027年国際園芸博覧会について、横浜市、2027年国際園芸博覧会協会と連携してPRを行う。
■ 屋内展示施設概要	《施設の条件》 各国が出展する屋内展示施設予定地に博覧会事務局が整備する屋内展示施設内の約200㎡のスペースにおいて、隣接する屋外出展と連携して屋内展示を行う。

1 屋内展示の考え方

ドーハ国際園芸博覧会のテーマ 緑の砂漠、よりよい環境

ドーハ国際園芸博覧会は、砂漠化を抑制し、持続可能な環境を確立するための革新的な解決策について、参加者と来場者に奨励し、刺激を与え、情報を提供することを目的とする。

上記テーマを踏まえた同博覧会のサブテーマ

最新の農業

テクノロジーと
イノベーション

環境意識

持続可能性

日本国出展テーマ

日本の花きや先進的な緑化技術を「Green Gift」という形で官民連携により展示し、中東地域も含めた**日本産花きの輸出振興**を図るとともに、**日本の緑化・環境技術の海外展開の促進**を図る。

屋内展示における情報発信 (屋内展示基本方針より)

自然、風土、美意識を踏まえた、優れた花き、伝統ある花き文化

花や緑の有する機能、効用とそれが心豊かな生活の実現に果たす役割

砂漠の緑化、持続可能な開発等、本博覧会のテーマ、サブテーマに資する日本の技術

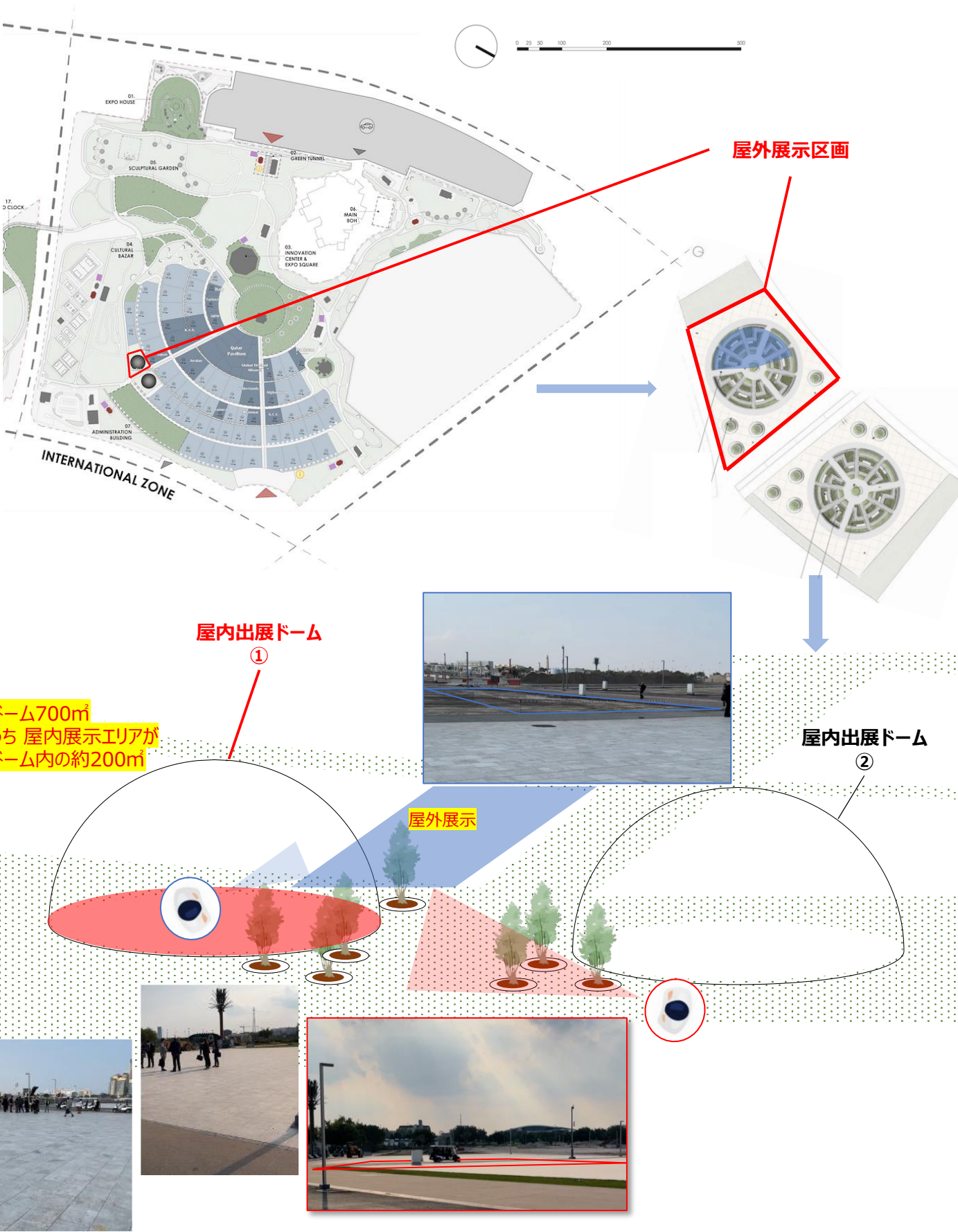
【屋内展示テーマ】
花と緑のある心豊かな暮らしの実現
自然との共生と再生循環の知恵

→ 2027年国際園芸博覧会（※）への展開

※花や緑との関わりを通じ、
自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案

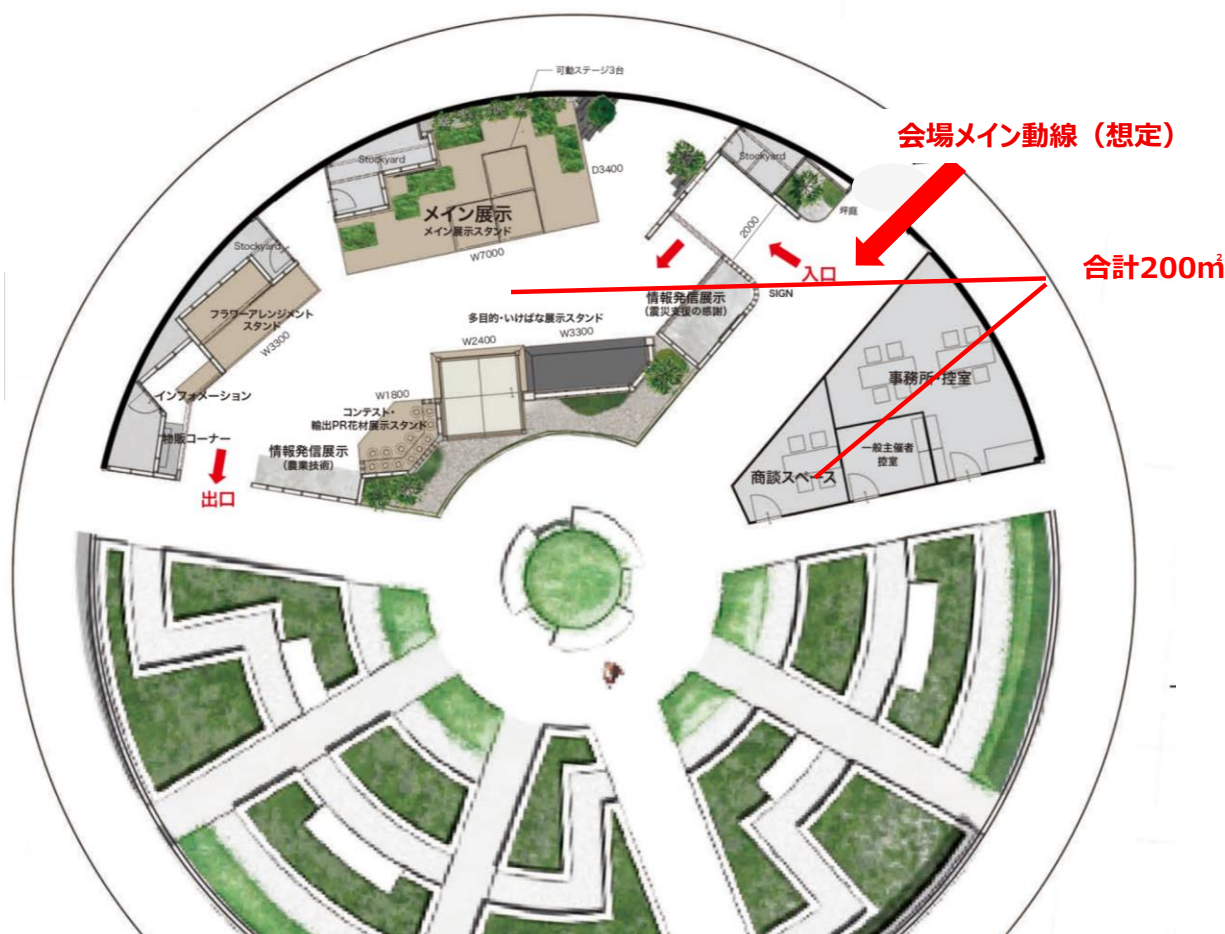


2 屋内出展施設



3 展示ゾーニング・動線について

多くの来場者を想定するため、館内は一方通行を基本とし、
混雑時など必要に応じ入場制限を検討し、安全確保に務める。



全ての人にやさしい会場計画

- インフォメーションは動線に沿ったわかりやすい場所に配置し、「インフォメーション」と明確にわかる表示を行う。
- 触れることのできない展示物などには注意を喚起するため、ピクトグラムサインを配置する。
- 角や出っ張りのある備品などを使用しないよう配慮する。
またやむを得ず使用する場合は、スタッフによる注意喚起を行うよう徹底する。
- 展示台は、高齢者や障がいのある人など、様々な人が見やすいよう高さや傾斜などに配慮する。

新型コロナウイルス等感染症対策

➤ 例

- ・密を回避する一方通行による会場構成及び混雑時の誘導。
- ・スタッフ全員のマスク着用の徹底。
- ・展示ブース内の高頻度接触場所等に用いられる設備・ツール等は、抗菌コーティングを行う他、こまめに清拭、清掃を行う。
- ・展示会ブース内及び事務所には手指消毒用のアルコールを配置。

※ 具体的には開催時のカタル国、博覧会事務局の感染症対策を踏まえて決定する。

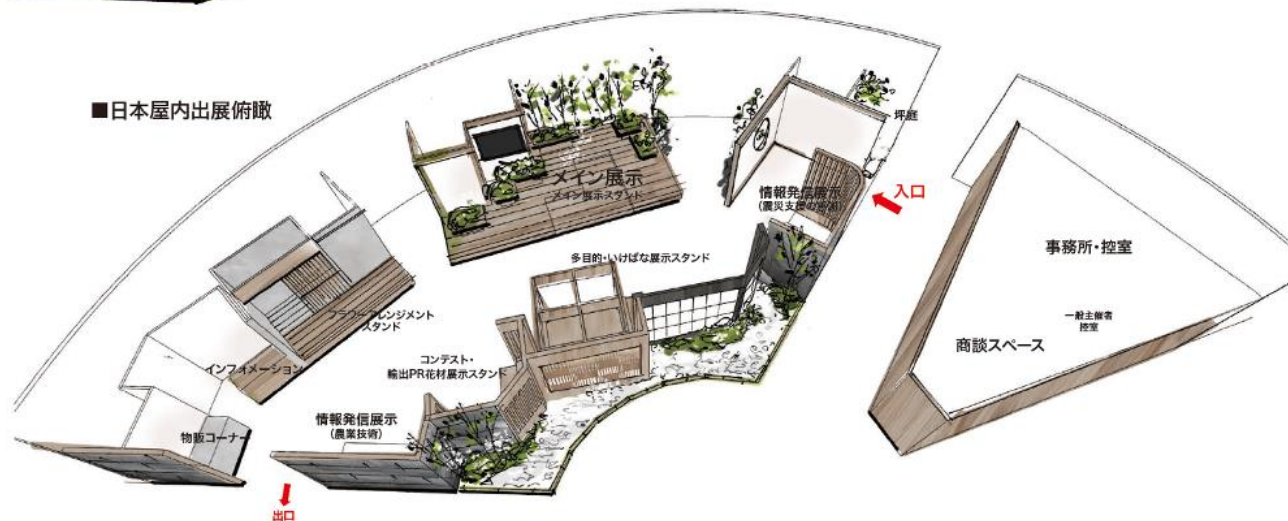
4 展示会場イメージ図

随所に日本らしさを演出した来場者の記憶に残る展示とする。
実物や写真、映像等の様々な媒体を組み合わせ、フレキシブルな展示に対応した構成とする。
展示品の知的財産権の確保については、防犯カメラの設置や手が届きにくい新品種展示の方法などの工夫や、
日本専用の施設が出来る倉庫の確保などを行い、盗難防止を図る。

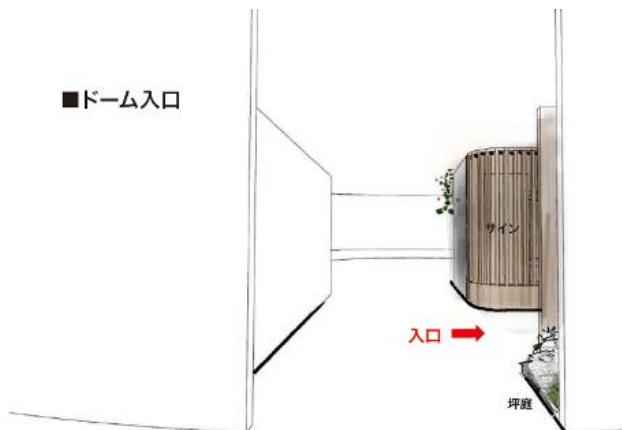
■日本屋内出展外景



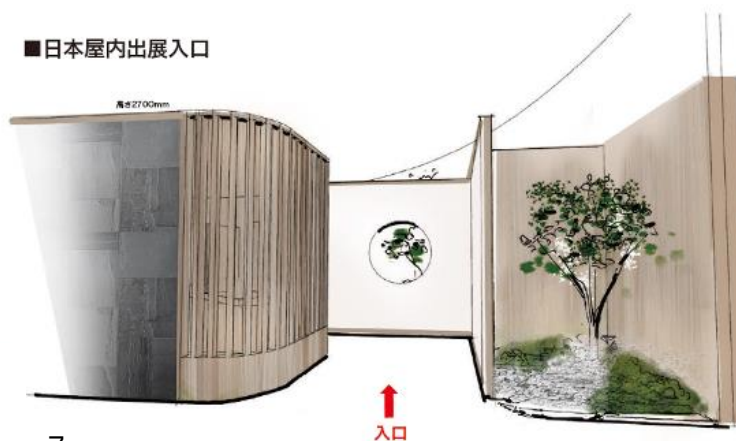
■日本屋内出展俯瞰



■ドーム入口



■日本屋内出展入口



5 展示構成

メイン展示スタンド

◎ 博覧会のテーマ、日本政府、屋内出展のテーマを踏まえ、園芸関連団体、企業・地方自治体等が出展展示を行う。
特に2027年国際園芸博覧会協会・横浜市の協力を得て、2027年国際園芸博覧会のテーマに繋がる展示を行う。
◎ 展示ブース中央に位置し、インパクト・驚き、感動を与える展示コーナーとして展開する。
＊ オンライン出展時用（デモンストレーションやワークショップ等）の各種機材（映像システム、客席等）の準備。



多目的・いけばな
展示スタンド

◎ 各種イベント・パフォーマンスのスペースとしても活用。
◎ 多目的スペースとして上記のほか各種の多様な展示形態にもフレキシブルに対応できる場として活用する。
◎ いけばなの展示についても、このスタンドを活用して行う。

情報発信展示
震災支援の感謝

◎ 2027年国際園芸博覧会のPRコーナーを展開する。
◎ カタール国の東日本大震災の復興支援に対する感謝を表す展示を展開するとともに、復興の“今”を紹介するコーナーとしても展開する。



コンテスト・輸出PR 花材展示スタンド	◎日本から出品されたコンテスト花きや、輸出促進PRの重点品目などを紹介する場として展開する。 ◎品種コンテストの展示場所として展開する。 ◎展示品種・展示量に柔軟に対応できる形態とする。 ◎輸出用の花材のPR展示を行う。
情報発信展示 農業技術	◎我が国の自然と調和した持続的なライフスタイルやその中から育まれてきた花き文化や農業技術について紹介するコーナーを展開。 ◎今回の博覧会のテーマでもある「緑の砂漠、よりよい環境」、サブテーマ「テクノロジーとイノベーション」「持続可能性」等を踏まえ、砂漠の緑化、持続可能な開発等に関する技術について、研究機関、企業・団体の出展や協力による展示を行う。



インフォメーション 物販コーナー	◎来場者への日本出展の紹介、より積極的な交流窓口としてのインフォメーション。 ◎パンフレットその他による展示内容の紹介。 ◎来場者の情報キャッチと共に出展者への情報提供。 ◎物販対応を行う場所として利用する。
フラワーアレンジ メントスタンド	◎日本の花きデザイン団体などの協力のもと、「フラワーアレンジメント」の展示を行う。 ◎日本から出品された輸出促進PR花きなどを活用した日本のフラワーアレンジメント紹介する場として展開。 ◎会期期間中を通して日本の花きの文化を紹介・伝えていく場とする。



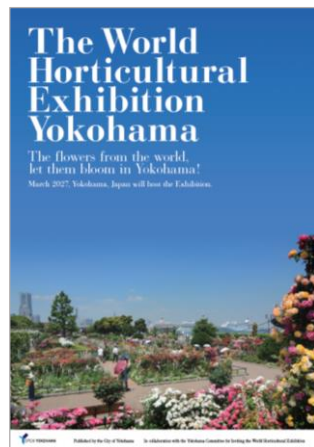
6 情報発信展示（震災支援の感謝）

2027年国際園芸博覧会のPR

2027年国際園芸博覧会について、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会・横浜市と連携してPRを行う。
開催概要、開催に向けた進捗状況を紹介し、開催に向けた期待感の醸成、各国等の参加促進を図る。

【展開イメージ】

- ◎ PR映像の放映をはじめポスターやパンフレット等の掲出・設置
- ◎ 2027年の開催に向けた進捗状況の紹介 など
- ※ 公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会・横浜市と協議の上、実施内容を検討。



■ 2027年国際園芸博覧会の概要

《テーマ》

幸せを創る明日の風景

Scenery of The Future for Happiness

植物の自然資本財としての多様な価値を再認識し、持続可能な未来と誰もが取り残されない社会の形成に活用するとともに、自然との共生や時間・空間を含めたシェアがもたらす幸福感を、新たな明日の風景として可視化していくことを目指す（基本計画の開催理念）

開催期間	2027年3月19日～9月26日（約6か月間）
開催場所	旧上瀬谷通信施設（横浜市）
博覧会種別	A1（最上位）クラス
参加者数	1500万人（地域連携やICT活用などの多様な参加形態を含む）
博覧会区域	約100ha
開催組織	公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会



東日本大震災の復興支援に対する感謝

被災地復興メッセージ

東日本大震災の復興支援に協力いただいているカタルと日本の交流事業などについて紹介する。
具体的には、被災地の「子どもたちの教育」、「健康」、「水産業」、「起業家支援」の4分野を支援するプロジェクトを対象に支援していただいた「カタルフレンド基金」を軸に、復興支援に対する感謝の気持ちを表現する展示を検討する。
また、被災地で生産された花きの展示も検討する。

7 情報発信展示（農業技術等）

博覧会のテーマ等に即した技術等の展示

砂漠の緑化、持続可能な開発等、博覧会テーマ「緑の砂漠、よりよい環境」、サブテーマ「テクノロジーとイノベーション」、「持続可能性」等に資する技術や植物の機能性に関する情報を、製品、映像やパネル等で紹介する。

【展示技術の例】

- 水耕栽培
- 底面給水
- 壁面緑化
- 植物工場（ICT・AI活用、遮熱フィルム、LED補光・UV照射、苗の安定生産等）
- LED照明等屋内緑化技術
- 乾燥地域における風食抑制等砂漠化対処技術

【イメージ】



植物工場（資料：JIRCAS）

8 商業活動促進支援について

日本の花き園芸文化、食品等の普及や来場促進の観点から、館内に物販コーナーを設ける。
販売品目等の詳細については、農林水産省との協議により検討を行う。

※カタール国の法令と博覧会の関係規則等に沿って商業活動を実施する。